

摂州大物浦難風の図概要

- 1: 文書群番号 066001
- 2: 文書群名 摂州大物浦難風の図
- 3: 出所 -
- 4: 家業・役職等 -
- 5: 地名 摂津国川辺郡尼崎大物町／兵庫県川辺郡尼崎町／内尼崎町／尼崎市大物町
- 6: 行政区分 尼崎藩領／兵庫県第9区／尼崎町戸長役場／尼ヶ崎町／尼崎市
- 7: 歴史
大物は神崎川の河口にあった河尻の砂州から発達した港である。文治元年（1185）、源頼朝に追われた源義経一行は大物浦から西国へ船出したが、大風に阻まれて小舟一艘が和泉にたどり着いたという。
本図を作成した豊原国周（天保6年・1835～明治34年・1901）は歌川派の浮世絵師。風俗画・俳優似顔絵を得意とし、復古調的な歴史資料を素材に伝統的な浮世絵の美を守ったことから、明治の三大浮世絵師の一人として名が挙げられる。
- 8: 伝来 昭和41年（1966）5月に古書店より購入。
- 9: 史料入手先 古書籍商
- 10: 点数 1点（目録件数1件）
- 11: 年代 幕末～明治
- 12: 構造と内容 本資料は豊原国周画、3枚1組の木版色刷りの浮世絵である。観世座三代目大夫音阿弥の子、観世信光（永享7年・1435～永正13年・1516）が源義経主従西国落ちを題材として作った謡曲「船弁慶」後半の場面を描いている。作品中に「文治四年」とあるが、義経西国落ちは正確には文治元年（1185）の出来事である。一枚目には「国周」、二枚目に「一鶯斎国周」、三枚目「露松庵国周」とある。
- 13: 関連史料 同画題の資料として「摂州大物浦平家怨霊顕る図」がある。
- 14: 閲覧条件 原本、デジタル画像あり
- 15: 作成者 近藤浩二